

令和8年1月17日

講演者：丸山 顯徳氏（五條市史編集委員会 文学文芸部会員、花園大学名誉教授、文学博士）

☆要約

この講演は、五條市教育委員会主催の新五條市史文学文芸編発刊記念リレー講演会第5話として開催され、丸山顯徳先生（花園大学名誉教授）が「五條市北山の伝承話—殺された善龍、隠身の聖一」をテーマに講演を行いました。

丸山先生は、まず五條市の歴史的重要性について説明し、神武天皇をはじめとしてこの地域が古代から尊貴な人々が訪れる場所であったことを強調されました。先生は、賀茂神社が京都の賀茂神社よりも古く、この地域が天皇家の水先案内人のような立場にあった豪族賀茂氏の始まりの地であることを説明されました。

講演の中心となったのは、北山町に伝わる龍神の伝説です。丸山先生は、高田十郎編集の『大和の伝説』（昭和34年）をもとに北山の龍退治の話を紹介され、この伝説では、大龍が村を荒らし、修驗者が数珠を投げつけて龍を退治し、龍の体が三つに分かれて落ちた場所にそれぞれ龍頭寺、龍胸寺、龍尾寺が建立されたと説明されました。

また、先生は、自身が取り組む口承文芸学の観点から神話、伝説、昔話の違いを詳しく説明されました。神話は本来秘密にされるべき聖性神話であり、沖縄での調査経験から、神話は語ってはいけないものであることを学んだと述べられました。一方、伝説や伝承は語ることが許される俗性神話であり、信仰伝説と歴史伝説に分類されることを関敬吾氏の分類に基づいて説明されました。

龍の信仰について、丸山先生は世界各地に龍の話が存在することを『世界の龍の話』（17名の執筆者による共著）の編集経験を通じて説明されました。先生は、沖縄の津堅島でヤマタノオロチの祭りが古代から続いていることを確認し、これが龍神信仰研究のきっかけとなったことを述べられました。

奈良市辰市の理源大師による龍退治伝説や中国浙江省の龍神信仰などについても触れ、龍が雨を降らせる神として世界各地で信仰されていることを説明されました。

また、北山の龍は善龍であり、人々のために雨を降らせたが、上位の龍に背いたために殺されたという解釈を提示されました。

最後に、山伏や修驗者がこれらの伝承を伝えた担い手であり、葛城山系の修

行場としての五條市の重要性を強調されました。

講演後の質疑応答では、地元住民から具体的な地名や体験談が共有されました。

☆講演の内容

○五條市の歴史的重要性について

丸山先生は、まず五條市の歴史的重要性について説明されました。

賀茂神社と賀茂氏の関係について詳しく述べ、賀茂氏が天皇家の水先案内人のような役割を果たした豪族であることを紹介されました。この地域の賀茂氏が恭仁京、長岡京、平安京への遷都の際に先兵隊として活動し、各地に久我神社を建立したことを説明され、五條市近隣にある高鴨神社、中鴨神社（御歳神社）、鴨都波神社の三社が京都の賀茂神社よりも古く、この地域が加茂信仰の出発点であることを強調されました。

また、この地域が「宇智（内）」（うち）と呼ばれる理由について、神武天皇をはじめとして尊貴な人々が訪れる場所であったからではないかとの考えを述べ、折口信夫氏の「まれびと」概念と関連付けました。

○龍神信仰の世界的分布と研究の出発点

沖縄の津堅島での調査体験を語り、龍神信仰研究の出発点について説明されました。先生はこの島でヤマタノオロチの祭りが古代から続いていることを確認し、島の伝承では「頭が七つ、尾が七つ」という話があることを説明されました。

この発見が『世界の龍の話』（17名の執筆者による共著）の編集につながり、龍の話が世界中に分布していることが明らかになったと述べられました。

○口承文芸学の基礎理論

自身が取り組んでおられる口承文芸学について詳しく説明し、文献学との違いを明確にされました。

自身が沖縄調査をすでに130回行っていること、師匠の遠藤庄治氏は昭和48年から7万5千話もの膨大な民話を収集したことを紹介されました。

また、神話、伝説、昔話の分類について詳しく説明し、神話には聖性神話と俗性神話があることを述べられ、沖縄での調査経験から、真の神話（聖性神話）は語ってはいけないものであり、文部省の調査員には嘘を教えることもあると

島の人々から聞いたエピソードを紹介されました。

また、関敬吾氏の分類に従って、伝説を信仰伝説と歴史伝説に分け、昔話についても柳田国男氏と関敬吾氏の異なる分類体系について説明されました。

さらに、近年の世間話研究が都市伝説研究に発展していることも言及されました。

○北山の龍神伝説の詳細

高田十郎氏編集の『大和の伝説』から北山の龍神伝説が詳しく紹介されました。

大龍が村を荒らし、修験者が数珠を投げつけて龍を退治し、龍の体が三つに分かれて落ちた場所にそれぞれ龍頭寺、龍胸寺、龍尾寺が建立されたという話を読み上げ、修験者の祈祷した場所が「法願田」、龍の胴が落ちた所が「胴が段」と呼ばれ、三つの寺の仏像が現在も北山町東谷の草谷寺に残っていることを説明されました。

先生は、この龍が雨を降らせる善龍であったが、上位の龍に背いて人々のために雨を降らせたため殺されたという解釈を示されました。

また、奈良市北之庄、四條畷市龍尾寺、奈良市辰市、沖縄県伊良部島の類似した龍退治伝説についても紹介し、理源大師（聖宝）による龍退治の話を説明されました。

○世界各地の龍神信仰の比較

世界各地の龍神信仰についても触れられ、韓国濟州島、中国浙江省などの龍の話を紹介し、いずれも龍が雨を降らせる存在として描かれていることを説明されました。

これらの話を直接調査や研究者からの聞き取りによって収集したことを強調され、特に先生は、中国浙江省での調査体験について語り、現地での困難な状況についても言及されました。

また、龍神が水の神、天の神として世界各地で信仰されていることを説明し、北山の伝説がこの世界的な龍神信仰の一部であることを強調されました。

○修験道と文化伝承の担い手

修験道と文化伝承の関係について説明され、葛城山系が山伏の修行場であり、友ヶ島から大和川の亀の瀬まで続く修行場の各所に龍の話があることを説明さ

れました。

先生はこれらの修験者が北山町をはじめとする各地に文化を伝えた担い手であることを強調し、現在でも電車内ではら貝を持った山伏を見かけることがあります、この伝統が続いていることを述べられました。

○まとめ

最後に、丸山先生と参加者との間で質疑応答や地元の伝承についてのやり取りが行われ、具体的な地名や体験談が共有されました。